

平成 21 年 1 月 26 日

各 位

会 社 名 イーシステム株式会社  
代表者名 代表取締役社長 渡辺 博文  
(コード 4322、大証ヘラクレス)  
問合せ先 経理部 松本 千洋  
(TEL.03-6811-0003)

### 業績予想の修正および特別損失の計上に関するお知らせ

最近の業績の動向等に踏まえ、平成 20 年 10 月 22 日に発表した通期の連結業績予想並びに個別業績予想を下記のとおり修正いたします。

#### 記

#### 1. 連結業績予想数値の修正

平成 20 年 12 月期決算 連結業績予想数値 (単位: 百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 ( A )	5,860	100	120	35
今 回 修 正 予 想 ( B )	5,894	3	△49	△596
増 減 額 ( B - A )	34	△97	△169	△631
増 減 率 ( % )	0.6	△97.0	—	—
前期実績(平成 19 年 12 月期決算)	4,022	△328	△306	△196

#### 2. 個別業績予想数値の修正

平成 20 年 12 月期決算 個別業績予想数値 (単位: 百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 ( A )	2,500	25	40	30
今 回 修 正 予 想 ( B )	2,358	96	68	△589
増 減 額 ( B - A )	△142	71	28	△619
増 減 率 ( % )	△5.7	284.0	70.0	—
前期実績(平成 19 年 12 月期決算)	2,444	△186	△135	△515

#### 3. 修正の理由

当社グループはCRM事業をコアとして取扱製品の選択と集中を断行し、早期の業績改善をはかってきました。第4四半期は、米国発の金融危機が世界規模の急激な景気後退を誘発し、商談の先送りや小型化が顕著となりましたが、開発作業の稼働率向上、業務の合理化、無駄取りなど改善効果が現れ、個別業績では営業損益が黒字に転換しました。一方連結業績では、急激な景気後退の影響を受けた人材サービス事業の損益が悪化しました。当期の業績は個別・連結ともに前年比大幅な改善となり営業黒字化を実現する見込みですが、前回予想数値と比較し営業損益および経常損益は減少する見込みです。また当期純利益は、昨今の経済情勢の急激な変化の影響を受け、一部の子会社株式の減損(246百万円)、投資有価証券評価損(285百万円)を特別損失として計上しました。

以上